

犯罪学

科目ナンバリング CRL-305
選択 2単位

堀田 晶子

1. 授業の概要(ねらい)

本講義は、前半で犯罪学の伝統的な理論を回顧し、現在にも通ずる犯罪理論を模索する。後半では、日本の刑罰制度(死刑、自由刑、財産刑)の現状と課題を検討する。授業全体を通じて、「犯罪とは何か、刑罰とは何か」について多角的に捉える視座を養う。

2. 授業の到達目標

- ①伝統的な犯罪理論の分析を通じて、犯罪を多角的に捉える力を身につける。
- ②日本の刑罰制度に関する専門的な知識を身につけ、現状と課題を具体的に説明することができる。
- ③「犯罪とは何か、刑罰とは何か」を真剣に考え、自分の意見をまとめることができる。

3. 成績評価の方法および基準

試験によって評価します。評価配分の目安は、試験90%、授業への貢献度10%です。授業への貢献度は、勉学に対する意欲や授業態度等によって総合的に判断します。

4. 教科書・参考文献

教科書

守山正・小林寿一〔編著〕『ビギナーズ犯罪学〔第2版〕』(2020) 成文堂

守山正・安部哲夫〔編著〕『ビギナーズ刑事政策 第3版』(2017) 成文堂

参考文献

朴元奎＝太田達也〔編〕『リーディングス刑事政策』(2016) 法律文化社

井田良＝太田達也〔編〕『いま死刑制度を考える』(2014) 慶應義塾大学出版会

岡邊健〔編〕『犯罪・非行の社会学ー常識をとらえなおす視座』(2014) 有斐閣

5. 準備学習の内容

特に復習に力を入れてください。毎回の授業で扱ったテーマについて、レジュメやノートを読み返しながら、復習しましょう。疑問点が出てきたら、図書館を大いに活用し、テキストや参考書等を熟読した上で、学術論文等にもあたってみてください。刑罰論については、法務省や警察庁など公共機関のHPも参考になります。自分で調べても答えが出ない問題については、友人と議論したり、教員に質問したりすると良いでしょう。

6. その他履修上の注意事項

- ①春期の「少年法」を同時に履修することが望ましいです。さらに、秋期の「刑事政策」と「被害者学」を履修することで、刑事法全体に関する理解が深まります。
- ②授業をよく聞いて、その都度レジュメに書き込むか、ノートを取るようにしてください。自分で書いて理解することが大切です。授業の内容が聞き取れなかった場合は、あやふやのままにせず、すぐに確認してください。

7. 授業内容

- | | |
|--------|------------------------------|
| 【第1回】 | オリエンテーションー犯罪学と刑事政策ー |
| 【第2回】 | 犯罪学① ようこそ犯罪学の世界へ |
| 【第3回】 | 犯罪学② 犯罪学の父!犯罪生物学の展開 |
| 【第4回】 | 犯罪学③ 犯罪心理学・犯罪社会学の展開／サザランドの登場 |
| 【第5回】 | 犯罪学④ デュルケムの発想 |
| 【第6回】 | 犯罪学⑤ シカゴ学派と社会解体論 |
| 【第7回】 | 犯罪学⑥ 漂流理論・ラベリング論・コントロール理論 |
| 【第8回】 | 犯罪学⑦ 環境犯罪学 |
| 【第9回】 | 刑罰論① 死刑の意義と現状 |
| 【第10回】 | 刑罰論② 死刑存廃論 |
| 【第11回】 | 刑罰論③ 自由刑の意義と現状 |
| 【第12回】 | 刑罰論④ 自由刑の諸問題 |
| 【第13回】 | 刑罰論⑤ 財産刑 |
| 【第14回】 | 刑罰論⑥ 刑罰と処分 |
| 【第15回】 | 春期のまとめと試験(予定) |